



ハンド・ジュニアカップ優勝決定戦

コラソン男女日本一

第1回日本ハンドボールリーグ(JHL)ジュニアカップ優勝決定戦が11日、東京都の駒沢体育館で行われた。男女ともに、西ブロック1位の琉球コラソングジュニア、東ブロック1位の北陸電力ジュニアブルーロケットとの対決となり、男子は21-19、女子は16-13で競り勝ち、男女同時優勝を飾った。大会は同リーグ加盟チームのジュニアチームによる日本一決定戦。昨年8月、東西ブロックに分かれて総当たり戦を行い、最上位のチームが決定戦に進んだ。琉球コラソン男女は、男子5、女子4チームが出場した西ブロック大会でも全勝し、勝ち上がった。

▽男子決勝

琉球コラソングジュニア 21
10 11 11 19
北陸電力ジュニアブルーロケット 19

▽女子決勝

琉球コラソングジュニア 16
8 8 4 13
北陸電力ジュニアブルーロケット 13

攻撃に粘り

玉城5得点

男子

○：序盤から続いたシューティングゲームを制し、初代王者となった男子。山城輝大主将は「守備に反省点があるが、6年生最後の大会で優勝できてうれしい」と声を弾ませた。

守備では左45度の相手エースを徹底マークし、得点を封じることが成功したが、1人を警戒しすぎたことで、両サイドやポストから得点を奪われた。

しかし攻撃では粘りを見せた。高さのある相手にブロックされ、シュートが外れることもあったが、速攻などで得点。右45度の玉城翔も、1対1からのフェイントで相手マークをかわし、5得点を挙げた。玉城は「監督には攻めてこいと言われた。フェイントからのシュートがいつぱい決められてよかった」と喜んだ。

高さに対応 速攻で得点

女子

○：速い攻撃で得点を重

ね、高さのある相手チームにうまく対応した女子。16人全員がコートに立ってプレーし、初優勝を手にした。

日本リーグ・プレーオフ決勝前に試合が行われたこともあって「緊張で硬くなり」（水野裕矢監督）本来のプレーはできなかったという。しかし、3-2-1と変形2-4の守備陣形で高めに守ってミスを誘い、左45度の新里陽月を中心に速攻などで得点を重ねた。「できるだけ中に入れないで、遠めからシュートを打たせるようにした。いろいろな攻撃パターンでできた」と金城ありさ主将。4得点の新里は「監督にはいつも通り攻めろと言われた。1対1で抜くことができた」と喜んだ。